

○ピシバニール注射用 [注]

【重要度】 picibanil (OK432) 【分類】 抗悪性腫瘍溶連菌製剤 [宿主機能賦剤]

【単位】 ▼0.2・○0.5・○1.0・○5.0KE/V

【用法】 添付文書参照

【透析患者への投与方法】 腎疾患のある患者には慎重投与となっている（動物実験で、大量投与した場合に溶連菌感染症類似所見がみられたため）が、減量の必要はないと思われる（5）

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし（5）

【特徴】 溶血性連鎖球菌をベンジルペニシリンカリウムとともに加熱し、凍結乾燥したもの。担癌宿主の免疫学的作用を介するものが主な作用機序であり、腫瘍に近接した部位（腹腔内）に投与した場合に最も強い効果が得られる。

【主な副作用・毒性】 ショック、過敏症、局所の疼痛、熱感、腫脹、硬結、発熱、全身倦怠、頭痛、関節痛、白血球、血小板増加、CRP、CK 上昇、肝障害、胃腸障害、タンパク尿

【分布】 肝臓、肺、脾臓の順に分布（Toki H, et al: 癌と化学療法 9: 2201-2206, 1982）

【TDM のポイント】 一般的に TDM は実施されていない

【更新日】 20130912

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でもいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。